

雲仙岳の火山活動解説資料（平成 24 年 3 月）

福岡管区気象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 3 月の活動概況

・噴気など表面現象の状況（図 1、図 2）

噴気活動は低調に経過し、白色の噴気が時々観測される程度（最高高度は 20m）でした。18 日以降は遠望カメラ障害のため噴気は確認できていません。

・地震や微動の発生状況（図 2、図 3）

火山性地震の月回数は 6 回（2 月：6 回）と少ない状態で経過しました。震源は、主に平成新山直下の浅いところに分布しました。

火山性微動は 2006 年 11 月以降、観測されていません。

・地殻変動の状況（図 4、図 5）

GPS 連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

・熱活動（図 6、図 7）

3 月 22 日に実施した現地調査では、前回（2010 年 8 月 31 日）と比べて熱異常域の分布に特段の変化は認められませんでした。



図 1 雲仙岳 噴気の状況（3 月 10 日、野岳遠望カメラによる）

この火山活動解説資料は福岡管区気象台ホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 24 年 4 月分）は平成 24 年 5 月 10 日に発表する予定です。

※この資料は気象庁のほか、九州大学、国土地理院及び長崎県を經由した九州地方整備局のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』及び『数値地図 10mメッシュ（火山標高）』を使用しています（承認番号：平 23 情使、第 467 号）。

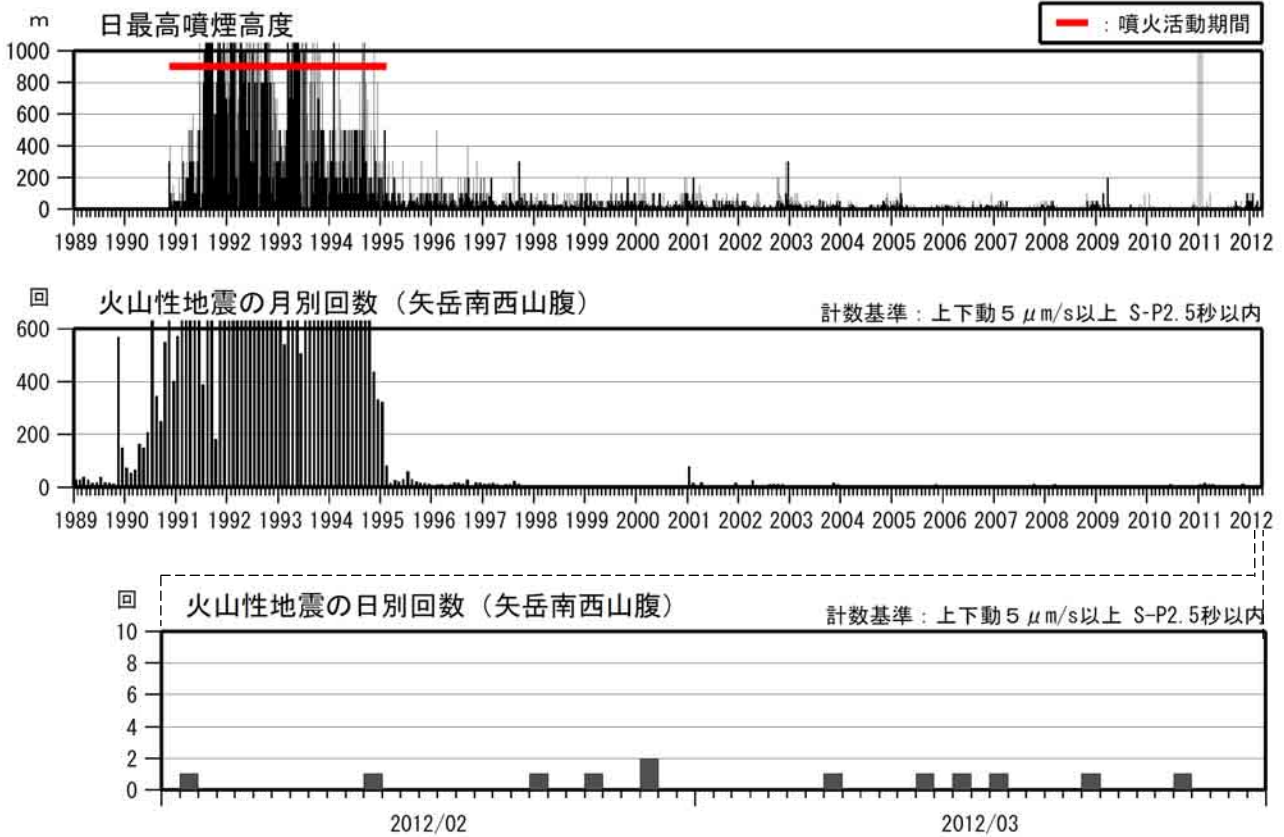


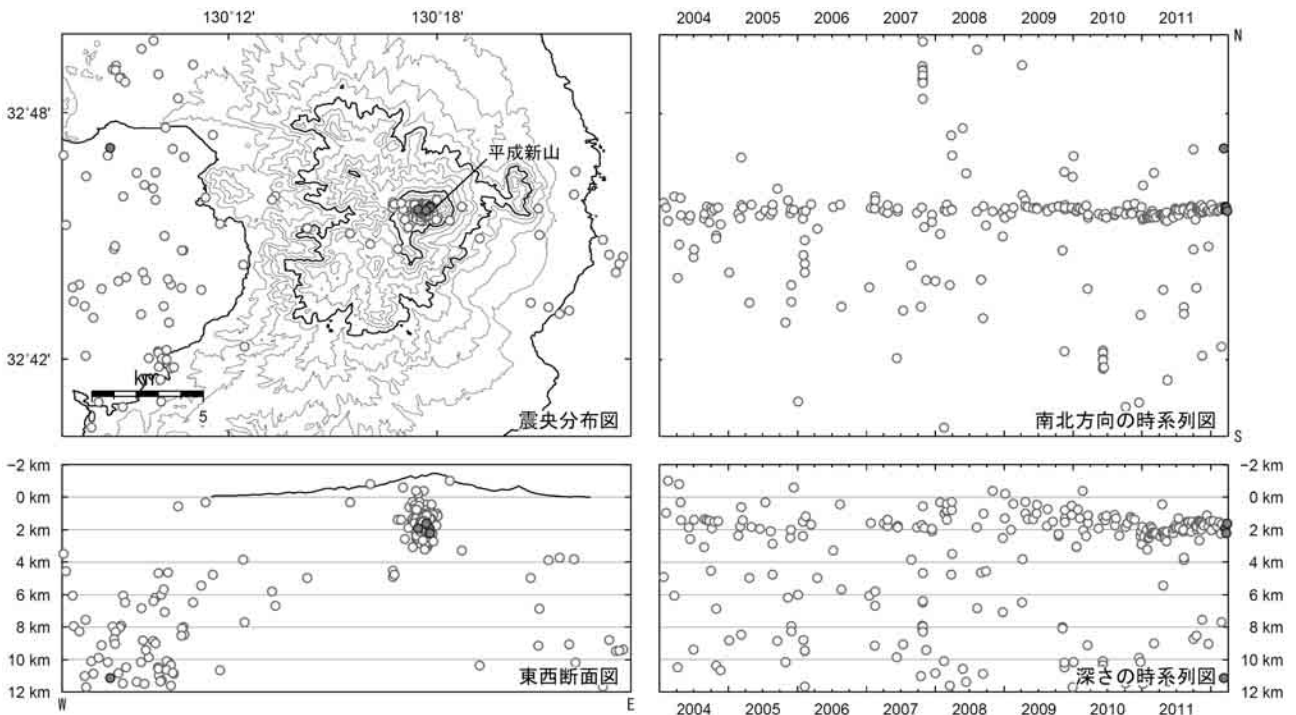
図2 雲仙岳 火山活動経過図（1989年1月～2012年3月）

噴気活動、地震活動ともに静穏な状態で経過しています。

<3月の状況>

- ・噴気活動は低調に経過しました。
- ・火山性地震は少ない状態で経過しました。

灰色部分は遠望カメラ障害のため欠測。



- : 2012年3月の震源
- : 2004年1月～2012年2月の震源

図3※ 雲仙岳 震源分布図（2004年1月～2012年3月）

<3月の状況>

震源は、主に平成新山直下の浅いところに分布しました。

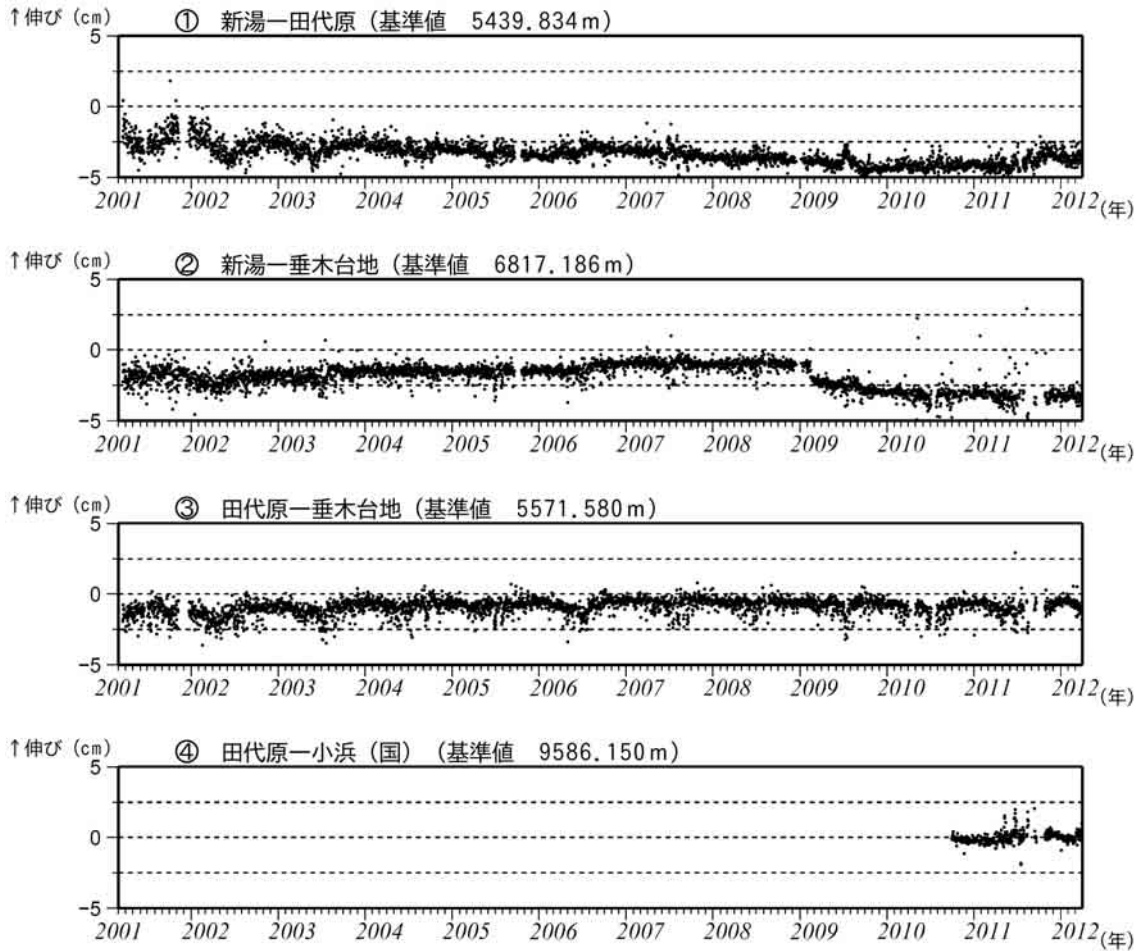


図4※ 雲仙岳 GPS連続観測による基線長変化（2001年3月～2012年3月）

< 3月の状況 >

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

この基線は図5の①～④に対応しています。

①、②の基線にみられる2009年2月の変化は、雲仙岳観測所の庁舎解体に伴う変動と考えられます。2010年10月以降のデータについては、電離層の影響を補正する等、解析方法を改良しています。また、掲載する基線を一部追加しました。

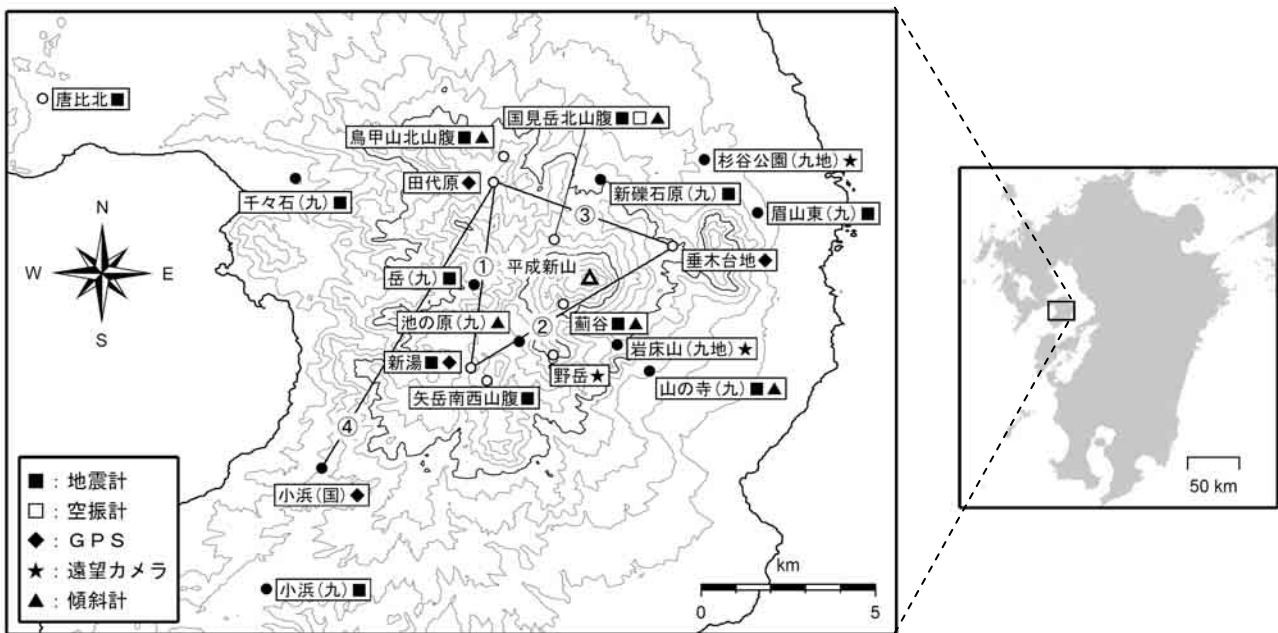


図5 雲仙岳 観測点配置図

小さな白丸は気象庁、小さな黒丸は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

(国)：国土地理院、(九地)：九州地方整備局、(九)：九州大学

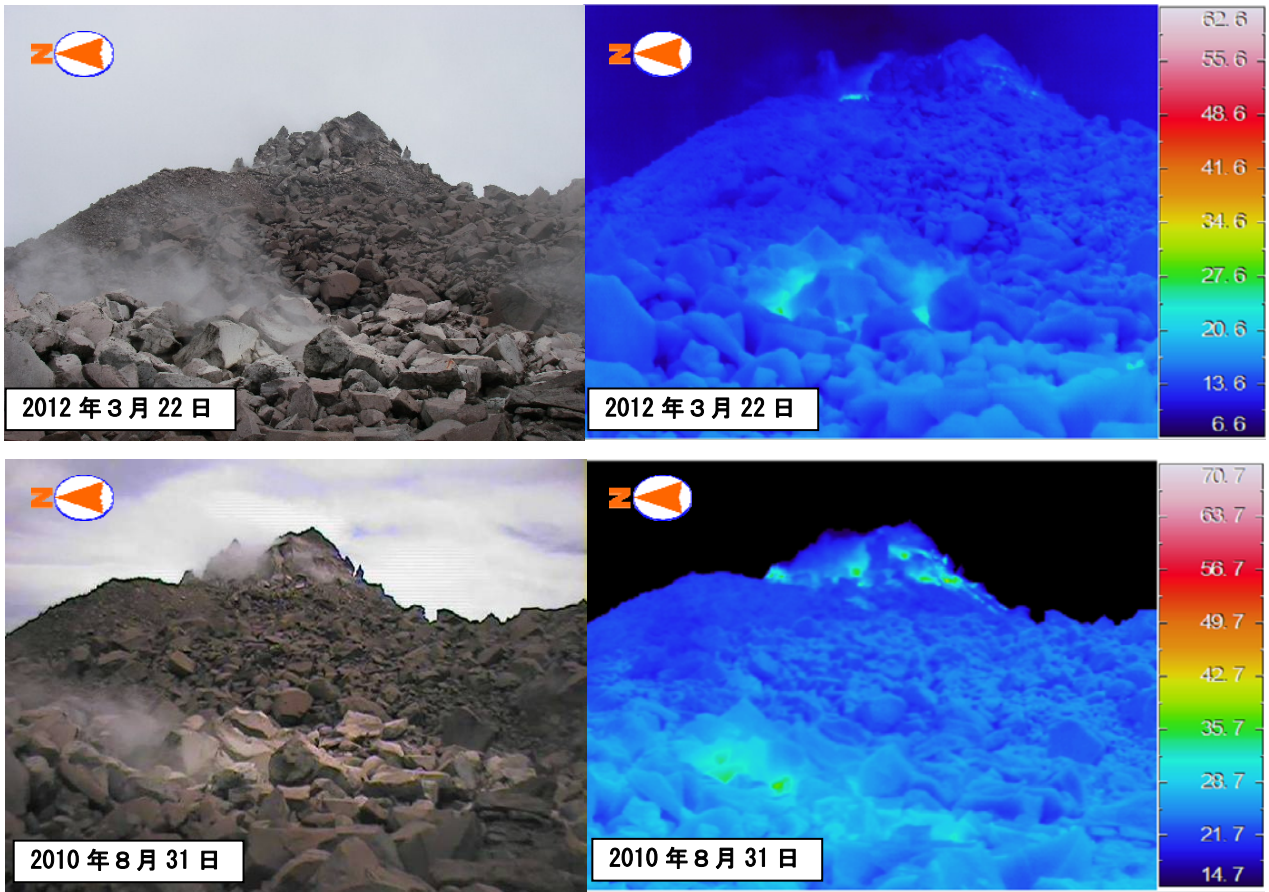


図 6 雲仙岳 赤外熱映像装置による平成新山山頂部の地表面温度分布（TD1 から撮影）
 前回（2010 年 8 月 31 日）と比べて熱異常域の分布に特段の変化は認められませんでした。
 赤外熱画像の温度表示レンジは、熱異常域ではない領域の平均温度で調整して表示しています。

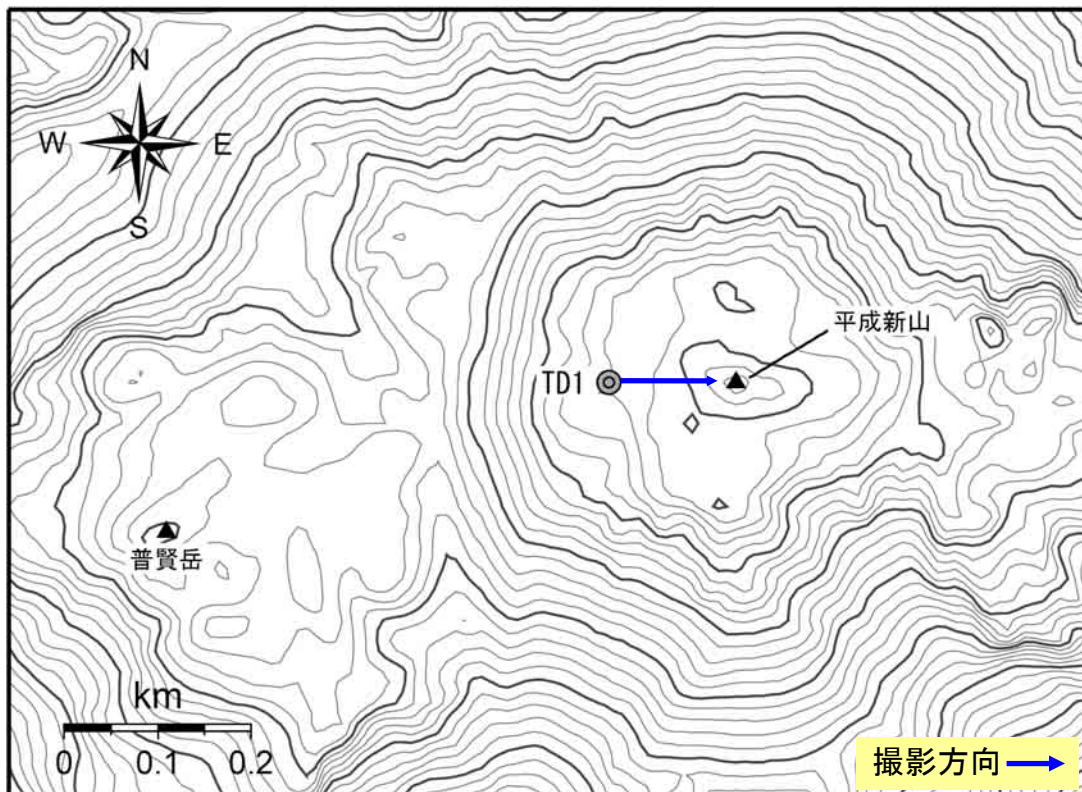


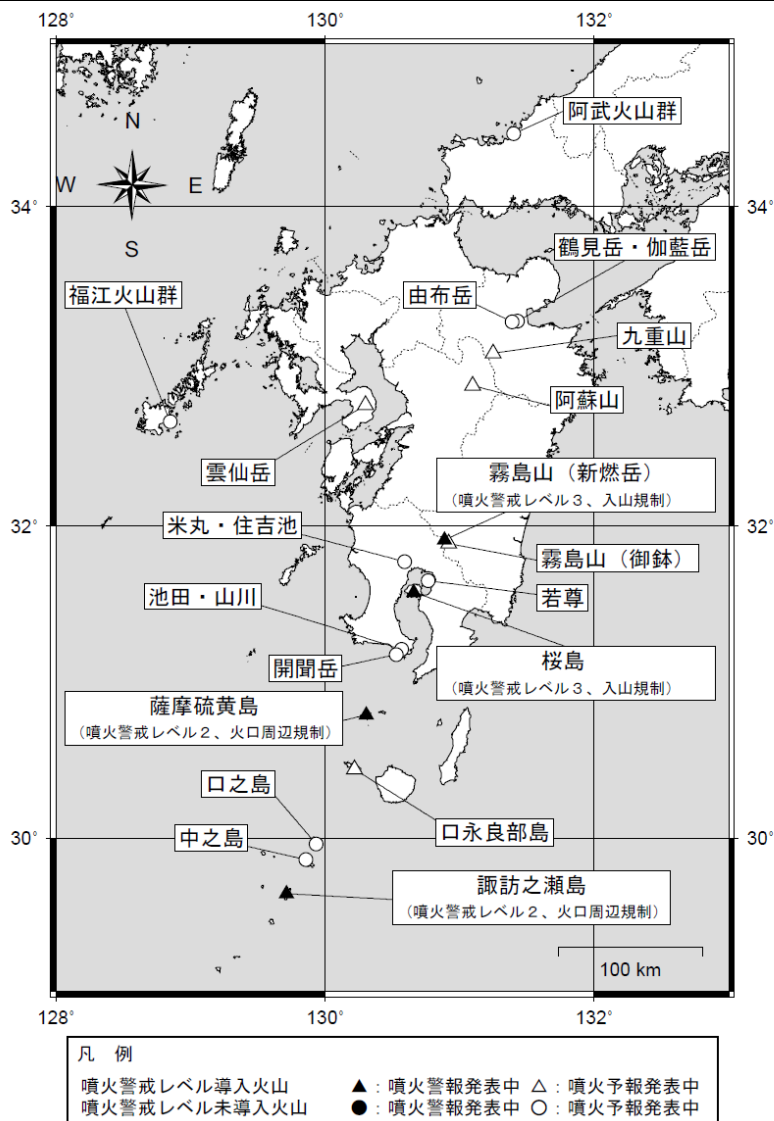
図 7 雲仙岳 赤外熱映像観測点配置図

管内月間火山概況（平成 24 年 3 月）

福岡管区気象台
火山監視・情報センター

噴火警報及び噴火予報の発表状況（3月31日現在）

警報・予報	噴火警戒レベル 及びキーワード	該当火山
火口周辺警報	レベル3（入山規制）	霧島山（新燃岳）、桜島
	レベル2（火口周辺規制）	薩摩硫黄島、諏訪之瀬島
噴火予報	レベル1（平常）	九重山、阿蘇山、雲仙岳、霧島山（御鉢） 口永良部島
	平常	阿武火山群、鶴見岳・伽藍岳、由布岳、福江火山群、 米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開聞岳、口之島、 中之島



※噴火警戒レベルは、地域防災計画等でその活用が定められている火山に導入されています。

この管内月間火山概況は気象庁ホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。次回の管内月間火山概況（平成 24 年 4 月分）は平成 24 年 5 月 10 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、九州地方整備局、国土地理院、東京大学、京都大学、九州大学、鹿児島大学、独立行政法人防災科学技術研究所、独立行政法人産業技術総合研究所、大分県、長崎県、鹿児島県及び阿蘇火山博物館のデータも利用して作成しています。

各火山の活動状況及び予報警報事項

桜島では、12日と21日に火口周辺警報を発表し、警報事項を切り替えました（噴火警戒レベル3（入山規制）は継続）。

^{つるみだけ がらんだけ} 鶴見岳・伽藍岳 [噴火予報（平常）]

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

^{くじゅうさん} 九重山 [噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）]

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

^{あそさん} 阿蘇山 [噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）]

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められませんが、火口内では土砂や火山灰を噴出する可能性があります。また、火口付近では火山ガスに対する注意が必要です。

^{うんぜんだけ} 雲仙岳 [噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）]

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

^{きりしまやま しんもえだけ} 霧島山（新燃岳） [火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）]

新燃岳では、今期間、噴火は発生しませんでした。

新燃岳の北西数kmの地下深くのマグマだまりへの深部からのマグマの供給は停止しています。しかし、現在でも火口やその直下には高温の溶岩が溜まっており、新燃岳直下の火山性地震も続いていることから、突発的な噴火が発生する可能性があります。また、今後、深部からのマグマ供給が再開する可能性もあり、新燃岳へ多量のマグマが上昇すれば新たな噴火の可能性もあります。

新燃岳火口から概ね3kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。風下側では降灰及び遠方でも風に流されて降る小さな噴石（火山れき）に注意が必要です。2011年からの噴火では、風に流されて直径4cm程度の小さな噴石（火山れき）が新燃岳火口から10kmを超えて降りました。また、爆発的噴火に伴う大きな空振に注意が必要です。噴火警報等及び霧島山上空の風情報に注意してください。降雨時には泥流や土石流に警戒が必要です。降雨に関する情報に注意してください。

^{きりしまやま おはち} 霧島山（御鉢） [噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）]

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

^{さくらじま} 桜島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）] ←12日に火口周辺警報を発表し、警報事項を切り替え（警戒範囲を南岳山頂火口から概ね2km及び昭和火口から概ね2kmを超えた居住地域近くの範囲（昭和火口から概ね2.4km）に拡大、噴火警戒レベル3（入山規制）は継続）。その後21日に火口周辺警報を発表し、警報事項を切り替え（警戒範囲を昭和火口及び南岳山頂火口から概ね2kmの範囲に縮小、噴火警戒レベル3（入山規制）は継続）。

昭和火口では、爆発的噴火が112回発生する等、活発な噴火活動が継続し、12日15時07分には大きな噴石が2合目（昭和火口から2km付近）まで達しました。

12日15時35分に、火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）を切り替え、警戒範囲を南岳山頂火口から概ね2km及び昭和火口から2kmを超えた居住地域近くの範囲（昭和火口から概ね2.4km）に拡大しました。

その後、大きな噴石が2合目まで飛散する爆発的噴火の発生はなく、また、地震活動及び地殻変動に特段の変化は認められず、噴火活動がさらに活発化する兆候は認められませんでした。このことから、21日11時00分に火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）を切り替え、警戒範囲を昭和火口及び南岳山頂火口から概ね2kmの範囲に縮小しました。

昭和火口及び南岳山頂火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒が必要です。風下側では降灰及び遠方でも風に流されて降る小さな噴石（火山れき）に注意が必要です。爆発的噴火に伴う大きな空振や、降雨時には土石流に注意が必要です。

さつまいおうじま

薩摩硫黄島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]

硫黄岳山頂火口の噴煙活動はやや高い状態で経過しました。

火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね 1 km の範囲では噴火に対する警戒が必要です。風下側では降灰及び遠方でも風に流されて降る小さな噴石に注意が必要です。

くちのえらぶじま

口永良部島 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

火山活動は静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。ただし、新岳火口内では噴気活動が続いており、火山灰等の噴出する可能性があります。また、火口付近では火山ガスに対する注意が必要です。

すわのせじま

諏訪之瀬島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]

御岳火口では、6 日に爆発的噴火が発生するなど、噴火活動は活発に経過しました。

今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。風下側では降灰及び遠方でも風に流されて降る小さな噴石に注意が必要です。

上記以外の火山の活動状況に変化はなく、予報警報事項に変更はありません。